

安心・安全・自由空間のコンセプト

那須まちづくり広場 で住まう

人生完成期までの新しいコミュニティのある暮らし



那須まちづくり株式会社

PART 1

私から 孫子の代まで



「住まい」で 大事なこと

建物の堅牢さに加えて

「住まい」でいちばん大事なことは、「いのち」を守ること。

建物が堅牢であることはもちろんですが、私たちの「いのち」はそれだけでは十全に守られるとはいえません。

たとえば、信頼し合えるはずの家族でも、社会の変化やそれぞれの事情によって、わが身でさえ守り切れない事態も起こりえるでしょう。

守ってくれるはずの家族がその力を失ったとき、弱い立場に立つのが、子どもや高齢者、障害をもつ人たちです。

家族だけ、自分だけで抱える危険

そうなれば多くの場合、自分の希望や、大事にしていることを軽んじられる事態になってしまいます。

どんなに愛情を感じている関係でも、家族だけ、自分だけで困難を抱えると、むしろ「いのち」を危険にさらすこともあります。

また、支援や介護を受ける側に立ったとき、家族に過重な負担をかけることを望む方はおられません。

災害時も守られるシステム

さらに、平素の暮らしだけではなく地震や感染症流行などの災害時にあっても、弱い立場の人こそ守られるシステムを構築することが、全ての人の安全につながると、私たち「那須まちづくり株式会社」は考えています。

多世代が行き交うコミュニティ

そんな私たちが目指すのは、高齢者を中心とした多世代の「コミュニティ」です。

「那須まちづくり広場」の「住まい」が完成すると、暮らす人、仕事をする人、ボランティアの人たちなど、100人を超える人々が行き交う小さな村のような暮らしの場が実現します。

人生を全うできる暮らしの場を

高齢期になり、心身に変化が起きたり、経済的な事情が変わっても、大きく環境を変えることなく、「那須まちづくり広場」で人生を全うできる。

そこに暮らす人たちが、関係者や那須町の人たちとも、助け合って生きていく場と仕組みを提供したい。

そんな「理想」といわれる人生の完成期の暮らしを創造していきます。

広場に集う一人一人の尊厳が守られ、誰からも束縛をされない、発言が保障されるコミュニティが「那須まちづくり広場」です。

環境共生型の住まいは、優しい

「那須まちづくり広場」のもう一つの特徴は、これからの地球環境を視野に入れた「環境共生型の暮らし」を目指している点です。

旧小学校の跡地や建物を再利用し、リニューアルされた旧校舎内は、衣食や文化交流、簡易宿泊所、介護サービスから放課後等デイまで、基本的な暮らしの拠点になります。

校庭に建つ高齢者住宅「ひろばの家・那須1」は全49戸。お一人でも、カップルやきょうだい、友人、犬、猫とでも……自分が家族と思える人と暮らせる広さや個室を含む間取りになっています。

「ひろばの家・那須1」は、新築の住宅とともに、東日本大震災時の仮設住宅として

利用していたログハウスを再利用して活かします。

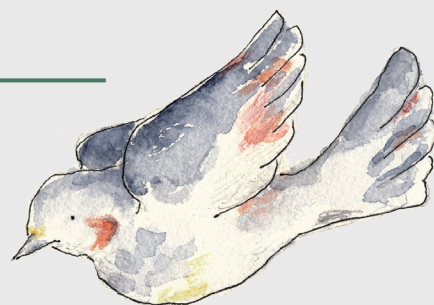
環境共生型で発想する「住まい」は、孫子の代にも優しく思いやりのある暮らし方を可能にしています。

衰えや病を恐れない暮らし

広場には、介護を重視した高齢者住宅「ひろばの家・那須2」(26室)、赤ちゃんから学齢期の子やその親、若い世代も高齢者も入居できるセーフティネット住宅「ひろばの家・那須3」(13室)、人生の完成期を自分らしく過ごす「みとりえ」(10室)も合わせて4つの「ひろばの家」があります。

こうした家々が、衰えや病を恐れずに最期まで、広場で暮らす人々を支えることになります。

私らしい暮らしを作る 家・ひろば・那須町の人々



私、私たちを 守っているもの

「那須まちづくり広場」での暮らしを鳥の目で見えてみます。

すると、実に多くの人たちとの関わりがあることがわかります。

黄色い円に囲まれたところが「那須まちづくり広場」です。周辺には那須町でああなたの暮らしを支え守る人たちがいます。

そして、私たちもまた那須町やそこで暮らす人々へ貢献することで、お互いで守り合う関係になっていきます。



PART2

セーフティネット と暮らしの質 を考える



「老い」は 避けては通れない

安心安全のセーフティネットを見直す

あなたを守るセーフティネットが身近にありますか？

世の中の変化が早い中、何度も見直しましょう。

私たちの暮らしには、国の社会保障だけではとても補うことができない細かなあれこれや、自分の好みや求めるものがあります。それらをいかに手厚くできるかが、高齢期の暮らしの質に関わります。

生活設計のすすめ

そこで私たちは、高齢期の住宅や住まい方をお考えの方には、お一人お一人が描く将来への不安や疑問を整理することをおすすめしています。

「生活設計」と呼ぶそれは、家族関係だけではなく、資産や経済、体調や心情、ご自身の嗜好といったことまでをテーブルにのせ、現実的に遠くない将来をイメージする作業です。

この「生活設計」をすることで、ばくとした不安の正体がわかり解決案の候補がみえてきます。何を選ぶかはご自身なのです。

生きがいや、やり甲斐ということ

「那須まちづくり広場」ならではの最大の特徴として、私たちの広場は高齢者だけの閉ざされた空間ではないということが挙げられます。

広場は、日常的に幼い子どもから学生、働き盛りの世代にも、また多世代の多種多様な仕事や活動をされている人に利用されます。

高齢者が長年築いてきた仕事や家事の経験、趣味や社会活動の実践を引き続き活かすことができます。

それは、生きがいややり甲斐につながり、自信や喜びにつながります。

質の良い暮らしとは

質の良い暮らしとは、立派とか豪華といったことではないでしょう。人と人との関係が良好であること。日々の暮らしの中で人の役に立ち「ありがとう」「助かった」と感謝されることで得られるようなことではないでしょうか。

「那須まちづくり広場」には、誰もがその人なりの力を発揮する場や機会がたくさんあります。

身体が弱くなってきてもそれは可能です。そこに在るいのちが輝いていれば、他者の生きる力となりえるでしょう。

あなたの住まいの条件に、そんな暮らしの質を加えてみてください。

ひろばの家の住まい方 自由自在

心身に変化が起こっても、暮らしの事情が変わっても、ずっと私の「尊厳」が守られる。
「那須まちづくり広場」で、人生の完成期を安心して心豊かに暮らす。

●瞳さん62歳

「ひろばの家・那須1」にて
伸び伸びおひとり様暮らし

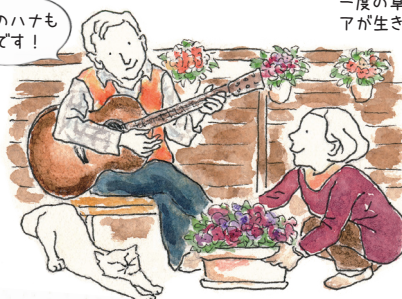
マルシェで週二回働き
はじめました



●聡子さん75歳 勉さん80歳

「ひろばの家・那須1」にて
夫婦二人でそれぞれの活動

愛猫のハナも
一緒にです！



夫はギター、
私はガーデニングと週に
一度の草刈りボランティア
アが生きがいに。



聡子さん82歳
交流ホール「ひろばのひろば」で
初コンサート



聡子さん88歳
がんを発症
「ひろばの家・那須1」に医療、
看護、介護、リハビリ、配食、
夜間定期巡回のスタッフが訪れる



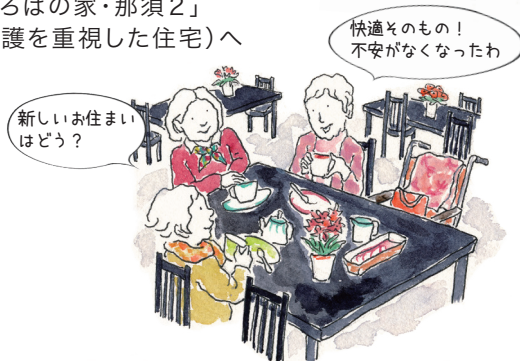
聡子さん92歳
ナースが運営する家「みとりえ」で、親しい仲間
に囲まれ最期の日まで安らかに過ごす



瞳さん75歳
軽い脳梗塞を発症
デイサービスに通所



瞳さん83歳
2度目の脳梗塞を発症
「ひろばの家・那須2」
(介護を重視した住宅)へ



聡子さんと 勉さんのその後

勉さんは80代後半になると、
心身の衰えが始まり、90歳で
永眠されました。
それまで、定期巡回で24時間
の切れ目のない介護と看護を
受けます。それは3年ほど続
きました。
その間、聡子さんは勉さんと
自宅で一緒に暮らし続けるこ
とができ、負担も感じず安心
して最期のときを過ごすこと
ができたのです。

ひろばの家・那須2



PART3

理念をもつ

暮らしを豊かにする 真の条件

立つことが難しくなったら

私たちにとって理念とは、建物の土台に等しく、重要なものです。そこに時間と労力をかけて確かなものとする。その努力を惜しまないことが「ひろばの家」で日常を送る人たちの豊かさにつながると考えています。

「那須まちづくり広場」の理念をひと言で表すと「自立と共生」です。「自立」は、経済的にも精神的にも一人で立つということ。でも、誰もが一人で立つことが難しくなることがあります。そんなときでも助け合い支援できる場を目指しています。

自然との共生は小さなことから

そして「共生」とは、差別や区別なく誰もが共に暮らし合うことですが、それは人間関係に留まりません。

私たちの暮らしが自然環境とも共生し、人と自然との両輪で成り立つものです。これにはあまりに大きな多岐にわたる課題が山積しています。

一朝一夕で成し遂げられるものではなく、できることから始めてあきらめずに取り組むことが大切と考えます。



知恵を働かす

現代社会に生きる私たちは、効率や便利さ、経済をあまりに優先しすぎました。本当に大切なことは何かを考える時間を奪われてきたのかもしれない。

しかし、その全てを否定して生きることはできず、今後将来に渡り様々な知恵を働かす必要があります。

たとえば「車」という「足」のこと

たとえば、那須の暮らしでは「車」という足に頼らざるをえません。「ひろばの家・那須1」で暮らす人たちは、毎日運行する送迎車を利用できます。

高齢期には運転の厳しさを実感します。そんなとき、複数の人と車を利用しあえば、人にも環境にも優しい「足」になるでしょう。環境に負荷のかかる「車」も、工夫次第なのです。

ボランティアの輪が広がる

そこで広場では、車利用を支援して下さるメンバーを募り、「通貨」を発行。利用者がボランティアにお礼をする際に使う試みも始めています。

こうした知恵と活動は多岐に渡り、賛同された方が町内をはじめ他地域からも参加し、ボランティアの輪が広がっています。「那須まちづくり広場」では、私たちの理念に賛同し、活動される方を募集しています。

1) 那須まちづくりの会

①あさひ倶楽部

広場で活用する通貨「あさひ券」を発行。主に買い物、通院、金融機関、温泉などに送迎するドライバーボランティアへの謝礼として使用。様々な助け合いを促進するグループです。



②ランドデザイン部会

「広場を美しく暮らしやすく安心安全な場に」を目標に、ビオトープ、井戸掘り、たい肥を使った畑づくりなど防災や環境共生を進めています。



③美化クラブ

広場内外の整備・清掃・花壇・草刈り活動をしています。



2) 那須広場塾

学習会を開催し、自ら行動する塾。現在はエネルギー問題を学び、地域エネルギー会社の設立を目標にしています。また、行政への政策提言もおこなっています。

3) 地域づくり推進で連携

(一社) コミュニティネットワーク協会、ワンランド(株)、(特非) ワーカーズコープ、那須町役場、那須町の活動団体、地域金融機関、日本統合医療学会などの皆さんと連携し、那須町の地域づくりを推進していきます。

4) 統合医療の推進

統合医療とは、近代医療に加え、鍼灸、エネルギー療法や、食事やライフスタイルの改善などを「統合的」に用いる医療のこと。それは、病気になりにくい健康な暮らしづくりにも役立ちます。



5) 環境共生

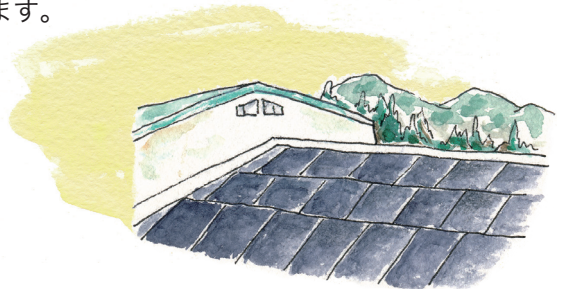
①フレグランスフリー宣言

香料製品をきっかけとした化学物質過敏症の発症が相次ぐことから、それら製品使用を極力廃した空間を目指し「フレグランスフリー宣言」をしました。



②太陽光発電など

非常時には自家発電をおこなうソーラーパネルを屋上に設置するなど、環境との共生を進めています。



那須まちづくり株式会社プロフィールと運営

理念の形成

一般社団法人コミュニティネットワーク協会

1995年の阪神・淡路大震災後、医療チームが中心となり学習と実践を重ね、1999年に設立。その「まちづくり」理念から「多世代多文化の共生型コミュニティ」を目指す。

企画と実践

那須まちづくり株式会社

那須町の廃校活用事業に応募して採択され、2018年旧朝日小学校を活用し、少子高齢社会の諸課題を解決する「新しい・小さなまち」の創造を事業目的として設立。2020年国土交通省の「地域づくり表彰事業」、第1回「小さな拠点部門」で「国土交通大臣賞」を受賞。

協同する組織

特定非営利活動法人ワークスコープ

2001年に設立。栃木県北で障害福祉サービス事業を始めて15年。カフェ、マルシェ、簡易宿泊所、放課後等デイサービス、就労継続支援などを運営。

ワンランド株式会社

1970年に設立。福島県と栃木県で、高齢者と家族が尊厳をもち暮らすためにサ高住・訪問看護事業・デイサービス等で支援を続ける。

那須まちづくり広場と那須町周辺

那須町に暮らす贅沢

栃木県の北東部に位置する那須町。那須まちづくり広場は、那須・福島県白河市両地域を生活拠点にできることから利便性は高く、四季折々の自然や新鮮な食材などが手に入る地域です。

那須高原スマートICから車で5分、東北新幹線「新白河」駅から車で18分。



那須まちづくり株式会社

〒329-3225 栃木県那須郡那須町豊原丙1340

電話：0287-74-3434
FAX：0287-74-3447
nasuhiroba.com
info@nasuhiroba.com

